

「山小屋に来る小鳥」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

この時期になると、北軽井沢の山小屋には、多くの種類の野鳥がやってくる。しかし、それを撮影するのは、容易ではない。小鳥を追いかけようとしても無駄に終わる。奄美の孤高の画家・田中一村は、「アカシヨウビンを描こうと思ったら、自分が描きたいポーズをとるまで、ひたすら待つ」と述べている。小鳥の撮影も同じである。ピントを合わせた状態で、枝に来るのをひたすら待つのだ。



最初にやってくるのは「ヤマガラ (山雀)」だ。人懐こく、鮮やかな羽色の小鳥だ。人によく慣れることから、かつては、「おみくじひき」などの芸当で、使われていたこともあった。私は山梨の昇仙峡のお蕎麦屋さんの屋外の席で、ヤマガラの「大群」に襲われて、食事を横取りされたことがある。

ヤマガラは、枝にとまると、周囲を警戒するように、必ず「ジー、ジー、ジー」と、少々ヒステリックな声で鳴く。私はその鳴き声で、ヤマガラの接近を知ることができる。この鳥は、人工的な巣箱にも好んで営巣し、たくさんの雛を育てる。シジュウカラとちがって、平地にはあまり見られず、名前の通り、山間部や高原に多い野鳥である。



「コガラ (小雀)」は私の山小屋に来る鳥では、「ヒガラ」に次いで小さい。小さいが、性格は強く、自分よりも大きいヤマガラも追い払ってしまう。



「ゴジュウカラ (五十雀)」は、キリッとした目元と、鋭い嘴を持った、ハンサムな野鳥だ。まだまだ野鳥に興味は尽きない。楽しい季節である。